

会 議 録

会議の名称		令和7年度 第2回春日部市社会教育委員会議	
開催日時		令和7年10月6日(月)	開 会 午前 午後 2時00分
			閉 会 午前 午後 4時00分
開催場所		春日部市役所本庁舎3階 302会議室	
議長(会長等)氏名		委員長 小野 奈生子	
出席者	委員氏名	(出席人数：10) 鈴木 美江、谷ヶ崎 覚、松田 洋子、	
		林 重盛、樺田 正俊、長濱 孝裕、比嘉 里奈、小野 奈生子	
		山田 農久、有馬 廣實	
	説明者 その他	(出席人数：1人) アドバイザー 青山 鉄兵 (文教大学 人間科学部 准教授)	
事務局	事務局	(出席人数：6人) 社会教育部長 樋口 智	
		社会教育部次長兼社会教育課長 関根 栄治	
		社会教育担当主幹 山下 剛史、社会教育担当主査 安保 遼太郎	
		社会教育担当主任 島崎 勇治、社会教育担当主事 高野 正晴	
次第及び公開・一部公開・非公開の区分		開会 あいさつ 議事 提言書(案)について 報告 各委員会等の報告について 事務連絡 閉会 <div style="text-align: right;">(全て公開)</div>	
一部公開・非公開の場合はその理由		非公開部分はありません	
配布資料		資料1 令和7年度 春日部市の公民館(概略版) 資料2 第19回 春日部市美術展覧会のご案内 資料3 春日部市子ども会育成連絡協議会 会報誌	
会議録の作成方法		<input type="checkbox"/> 録音テープ等を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音テープ等を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録	
会議録署名の指定		春日部市社会教育委員会議運営要領第3条第2項により会議の署名は、委員長が行う。	

ガールスカウト等については、1990年代位から会員数が激減しています。ただし、スポーツ少年団だけは、大きく減少していません。なぜかという、サッカーをやるとか野球をやる等、目的がある活動だからだと思います。

会員減少等の課題を、華麗に解決しているところは、なかなかないですけど、今回のこの5つの団体にフォーカスしますと、例えばこの5団体が、新しい団体とうまく連携するとか、例えば子ども食堂をやっている団体であるとか…、ここの5団体に限らない人たちと連携できるかどうかということが、一つのポイントになってくるのかなって思って、聞いていました。あとは行政とうまく組んで、イベントに入っていくのもいいかと思います。地域団体だけではなく、行政や施設の事業ともリンクしていく等、そのような仕組みが増えていくと持続可能という部分でよいかと思います。

議長（委員長）

- ・今お聞きして、目的的なものに関しては割り合い残っている。そうすると、各団体が特色を打ち出すというのが前提、さらに持続していくことを念頭に入れると、他の団体とどういう形で関われるか両側面を考えていくことが必要だということによろしいですか。

アドバイザー

- ・こどもも大人もですけども、習い事や体験活動、遊びにしてもお金払ってする、そのサービスを購入して体験するみたいなのが今、一般的になっていますよね。そうすると当然、格差も生じやすくなります。本来、地域でみんなで作るっていうことは、本当は、こどもの貧困と格差の問題を考えるすごく大切なものだったはずですが。今は「よそはよそ、うちがうち」という考えを、大人側もかなり明確に持っているので、そこをうまく乗り越えられるような仕掛けが必要なんだろうなって思います。

議長（委員長）

- ・今のお話を受けてでも構いませんし「提言書について」「持続可能な運営について」など、どこからでもよいのでご意見を頂けたらと思います。5つの団体とも共通している課題、後継者の育成、広報や会員募集の方法などでも結構ですのでざっくばらんにお話いただければと思います。

事務局

～ここで スライド視聴（交流事業）～

- ・このスライドは、文化連合会の取り組みで、こどもたちに日本舞踊を教えているところです。子ども大学での取り組みで、市内の小学校4年生から6年生の30人の子たちが参加しました。国際社会に備えるために、まずは自分の国のことを知ろうというテーマで、プログラムを考えていただきました。生け花や押し花、水引等、まずは全体に向けてお話をしました。その後、こどもたちは自分の好きなプログラムを選んでやり

ました。文化連合会さんから「こどもたちに日本の伝統文化を伝えたい」という話が、ヒアリングの中でありましたので、「これは！」ということですぐにお話をさせていただき実現しました。

次に、子ども会連合会ですけど、イオンモールでやっていただいた「宇宙文字」というものです。道行く人が「何やってるの？」とか「この団体さんはどんな団体さんなの？」っていうのを知るきっかけにもなって、これは子ども会的にもよかったというお話をいただきました。

次は、ガールスカウトさんですね。これもイオンの中ですけど、手話講座をやりました。こんな廊下で講座やって、ちゃんとできるのだろうかとか、すごく不安に思っていたらしいんですけど、意外に道行く人が足を止めて見てくれて、これもPR的にはよかったという話をしていました。これで会員が増えればいいんですけど、ただチラシは結構持っていてくれたようです。

市P連はイオンでこの9月、小中学生対象にお仕事体験のイベントを行いました。こどもたちにそういう体験をさせるのは、団体の趣旨にも合っているということで、継続してやりたいと言っていました。

委員

- ・文化連合会としては、貴重な体験をさせていただく機会を与えていただいていたと思います。ただ、何をやるにも初めてのことで、本当に大変でした。今回参加されたお子さんに、扇を差し上げたんです。その扇を持って帰ったお子さんが、家に帰って親に「こんなことやったよ」と伝えたようで、そのお子さんにとっては、少しでも日本舞踊に触れていただく機会になったのかなと思います。また、お子さんたちのアンケートを見ますと「体験してよかった」というようなお言葉をたくさんいただきました。こどもたちが体験する前に、実演を見せましたが、こどもたちは、なかなか見る機会がないので、実演を見ていただくことで、少しでも興味を持っていただけたのではないかと考えております。「これが伝統文化だ」ということを文化連合会はすごく大事にしておりますので、何か次世代に繋がるきっかけになればとは思っております。

アドバイザー

- ・「団体の持続可能性」それをどう支援するかの話なので、活動しやすい財政面での支援というのは、提言に盛り込んでもいいのかもしれませんが。ただ、今のお話を伺っていて、地域のものだから続けるのが当たり前、やるのが当たり前というのはもう続かないと思います。そうすると、ある程度楽しいということがすごく重要だと思います。うっかり、楽しいうちにやった方が本当は理想的で、何かこういった仕組み、地域の繋がりをベースに始まった活動ですけど、どれも、続けなきゃいけないから順番で誰かがやるよっていう形で進むよりも、やってみたら楽しかったっていうことを積み重ねていくこと、やってる側が楽しいと思える要素があるかどうか、そうでなければ、そう思えるように変えていってもいいんじゃないかなっていう気もしました。

<p>議長（委員長）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・我々は、いろいろな団体を知っているということが第一歩ですけど、思っていたよりも楽しく、その「思っていたよりも…」っていうところ、いい意味での期待の裏切り方みたいなのが、持続していくためには重要なのかなと思います。そもそもの意義の再確認というのも重要ですけど、やっぱりどこと繋がっていくか、どういう団体がいるかっていうのを知ることが第1なのではないかと思います。 <p>外部の団体と関わって「こんな楽しいことがあった」などでも、いいヒントになるとと思いますので、何かありましたらお願いします。</p>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私は、エンゼルドームに勤務しております、11月のイベントがボランティアを募らなければいけないような大きなイベントですので、共栄大の学生さんにお声がけさせていただきました。 <p>別の話なのですが、「地域の方とともに協議会を下さい」という政府からの児童館ガイドラインがあり、9月に協議会を開きました。そのときの懇話会のテーマが「不登校児童・生徒の情報共有と今後の対策」というものでした。実はエンゼルドームは、児童センターとしての機能があり、平日の午前中、ある小学校の不登校とも思われる児童が訪れるようになっています。そのことは、近隣の小学校の先生方とも共有しています。その会議には、東中学校の校長先生も出席しており、中学校の不登校の対策のお話を聞くことができました。「地域の繋がりは本当に大切なんだな」と児童センターとしても感じております。もしよろしければ、児童センターのそのような機能をうまく使っていただけたら…。と思ったところです。</p>
<p>議長（委員長）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に思っても見ないところがつながっていることもあります。持続していくという点では、重要なヒントになっていくのではという気がします。
<p>アドバイザー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・確かに、社会教育関係団体って補助金も出る団体ですから、ただのサークル活動とも違うわけですね。ある程度の公共性が求められるところはあるのかなと思います。そうすると例えば、高い参加費を取られるとか、メンバーがすごく選抜されるとか、そういうことは、そもそもないほうが望ましいと思います。それに加えて、ある程度社会教育的な、例えば皆さんの学びに繋がるとか、今で言えば、幸せとかウエルビーイングに繋がるとか、あとは地域づくりに繋がるとか、何らかの意義がある活動だっとなっているから、補助金も出されているわけです。その部分はすごく重要で、こういう人が集まればそれでいいとかではないということも、一方で確認しておく必要はあると思います。 <p>ただ、いいことやっているのは間違いないんですけど、あまり真面目すぎた結果が、今、自治会とかも含めてですけど、参加しづらい、続かないと…。さっき楽しい方がいいのではないかって言いましたけど、真面</p>

議長（委員長）	<p>目にして人が来る時代ではないかもしれないので、緩やかに公共的なことを抑えつつ、あんまり商業的にならないほうがいいと思います。いろいろと連携しながらやっていき、自由度が高いほうがいいのかなっていう感触は、うまくいっているところを見ると、そう感じます。</p> <ul style="list-style-type: none"> この5団体には、それぞれの団体の求めに応じるような形で、補助金を補助していると思っていいですね。それが、どこと交流するかによって制限が生まれることはありませんよね。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 私は逆にどんどん稼いでくださいっていうぐらいの感じなので…、別に金もうけしろってわけではないですけど、団体の運営のために、よく団体さんがお祭りで出店出して、売り上げを運営にとか、チャリティーで何かイベントやってなどよくある話なので、そういうものはどんどん…って、逆に言っていますね。
議長（委員長）	<ul style="list-style-type: none"> バランスっていうのが、何か難しいところなのかもしれません。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> あまり走り過ぎちゃると、本来の団体の意味がなくなってしまいます。補助金は結局、市の予算の限られた中でしかないもの。その中でお願いしますになってしまうので「足りない、足りない」って言われても…、気持ちはよくわかりますが、こちらでも「いろいろやりようはありますよね」みたいな話はしています。その中で、文化連合会さんは、自前で上手にやってらっしゃる団体です。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 補助金は、本当にありがたく思っております。
議長（委員長）	<ul style="list-style-type: none"> 活動をするにあたり、補助金の使い道って結構難しいと思います。大きなものをやりたい時にまとまったものがあれば、見通しが立てられる。何か特別予算じゃないですけど、今年はこの団体さんに少しとか、数年前から計画を立てていただくっていうような…、競争的にとまではいかなくても、例えば、支援を柔軟に対応することもありなのかなと思います。 <p>この委員会も最初の仕事として、補助金の使い道と補助金そのものに対して「これでよろしいんですか？」っていうところの議事から始まったかと思う。「何をよしとするのか」「使い道のバリエーションがある」というようなことも支援の一つの形としてよいのか？最後は質問になってしまいましたが…</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 事務局としては、団体さんの「やりたい」という気持ちには応えたいと考えています。一緒にできるところとコラボしたりとか…。ただ、それをやるのは、今度はこっちの方のコーディネート力にかかってくるかな

	<p>と思います。「このあたりの話は、こっちとつなげられるな」など、社会教育課とか行政が常にアンテナを張っておかないといけないと思います。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの考えを、すごく吸収してくださっているんですね。私たちも厚かましくも、お願いすることは絶えずお願いはしております。そういう関係って、市民としてはとてもうれしいです。
議長（委員長）	<ul style="list-style-type: none"> ・「団体の持続可能な運営に向けて」について、ご意見をいただきたいのですが。
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・今の時点で、他団体との交流の機会があるってということですか？それとも、今はないってということですか？
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・年に1回は、この団体が集まって、毎年3月あたりに情報交換会をやっていますが、それ以外の交流は、今のところはありません。
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・交流するとしたときに、この5団体だけが集まるほうがいいのか、もっと幅広く、補助金ももらっているもらってないかわかわらず、やったほうがいいのか…。社会教育補助金の予算が、拡充することがほぼなくなってくと、全国的にほぼ固定の団体に、固定費がついているような形になっていて、交流会をおこなっていくのも一つだと思うのですが、交流連携が目的だと、続かないことが多いような気がするので、何か大きなイベントを一緒にやるとか、何か目的がある形で交流するのがよいかなんて思ったのが一つ。また、広報について、現状はどういう形でやっているのでしょうか。一番の課題かもしれないけど、行政が手伝える余地とかがあるのでしょうか？
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・そこが行政の課題かなと思います。
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・単純に学校で全児童配布とかができるかどうかによって、イベントの集まりも全く変わってきます。裾野の広がり方も変わってくるのかなと思います。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・団体から依頼が来れば、学校には配っています。ただ、印刷してそろえるのが大変…となるので。
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・今だったら、学校もネットで何か見られたりとか回せたりする仕組みが入っていたりしないのですか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度に向けて、今いろいろ試行錯誤をしているようなことを聞きました。

	<p>たが…。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムというものが、来年度から本格始動します。
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・例えばそこに、外部の団体、地域の団体とかが「こういうイベントやるんで…」というものを流してくださいというのはありますか？この広報については、行政ができる支援の部分なのかなと思います。教育委員会が取りまとめて一覧にして、1通で済むようにして、月1で送ったりできないですかね。「今月の地域活動一覧」みたいなものが、一斉に教育委員会から流れれば「うちの地区でこんなのが、今週土曜日あるんだ。あなた、行ってくれば」みたいな話になったりとか「〇〇ちゃんも行くらしいわよ」みたいな話が出たりするのではないのでしょうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供ですが、現在、部活動の地域移行が進んでいます。その中で、文化的な部活について、相互で必要感があつた時に指導者が不足することが考えられます。その時、地域の方が受け皿となってくれたらいいかな…という話があります。美術部、合唱部、吹奏楽部、科学部など、地域が受け皿になってくれれば大変ありがたいです。
議長（委員長）	<ul style="list-style-type: none"> ・この機会を、地域の団体が活用するのもありだなと思います。
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生は地域との接点が本当にないので、今後、全国的には小学校はもちろんですけど、中高生は特に学校以外との繋がりをどうつくっていくかという話は、結構多いかもしれません。
議長（委員長）	<ul style="list-style-type: none"> ・「持続」というところを見た時、様々な可能性を都度選択できる選択肢をそろえておくことが、今できる支援なのかなと思います。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・単位団体自体はしっかりといろいろやっているんですけど、いざ連合体になると、やっぱり温度差を感じます。そうすると微妙なバランスの中で、上手に団体運営をしているのが、一個崩れると、総崩れになってしまうのでは…と感じるところもあります。
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の定義は、単位団体の活動は何とかやれているけれど、連合体がうまくいってないかということに絞ったほうがいいのですか？連合体に補助金が出ているわけですけど、でもこの根底の対象が誰かっていうことを考え、その手前の課題をどう把握するかのところで、個々単位の単Pとか単位子ども会とか単位ボーイスカウトの話を書くのか。その連合体が、いろんな課題を抱えているっていうふうに書くのかによって大分ニュアンスも変わってきそうな気がしますが、いかがですか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・連合体ですかね。
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・かなりマニアックな話になってきますね。でも、実際にいろいろなところでおきている話です。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ逆に言うと、私たちの方が単位PTAとか単位団体はよくやれてるって勝手に思っているだけで、実はもう大騒動になっている。単位PTAがなくなっている事例もありますし、それぞれの単位子ども会とか単位団体が無くなっているところだって山のようにあるので…。
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・連合体として悩みだけじゃないものが、いっぱい含まれてそうな気がしますし、もちろん繋がっているので、単位団体が盛り上がれば連合体もすそ野は広がっていく、人材が出てくる割合も上がってくるという意味では、単位団体が盛り上げなきゃいけないというのは前提だと思えます。
<p>< 休 憩 ></p>	
議長（委員長）	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、今回の会議のまとめにまいりたいと思います。内容的には、資料としてお示した「提言書案」に対して、それぞれの立場からのご意見をいただければと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・団体がだんだん衰退している現在ですが、社会の多様化や少子化も理由の一つと考えられます。また、スポーツなどでもそうですが、やっぱり参加する人がやってよかったという楽しさが大事だと思います。何でもそうですが、成果が表れると楽しくなるものです。ですので「補助金目当てで活動する」これは続きません。〇〇周年の時、積み立てしますよね。これが一番無難。それから、春日部市民であるけど「こんな団体あったの」という人も絶対いるので、それをいかに知らせるか等、広報が大事。 まず情報発信して知らせ、そして「こんなメリットがあるよ、楽しいよって」これが一番大事だと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの町内会でも、夏にお神輿を担ぐということになりました。やはり大人たち、先輩たちは「伝統を守る」ということに必死です。そんな中で、参加したこどもたちは「結構楽しかった」と言っていました。参加してみて「楽しい」という気持ちがこどもたちにもあるということが、僕もわかりました。その「楽しい」と言ってくれたことに対して僕ら大人も「やってよかった」というやりがいを感じました。楽しさを感じさせる役割をもつ役員。そういうところに関わってみたいというふうに感じさせることも大事なのかなと思いました。子ども会等の団体

<p>委員</p>	<p>を育てていくには、長期的な展望が必要なのだと学ばせていただきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「百聞は一見にしかず」とか言いますが、やはり一番大切なのは体験することだと思います。子どもたちの活動も、体験型の活動をどんどん増やしたほうがいいと感じます。さらに、団体の活動の沈滞化については、その団体の活動を始めた時の意義の確認、こういう目的でこの団体を作ったのだということの確認が大切だと思います。自分たちは、こんな目的でこんな目標を持って活動しているんだということ。その意義が、古すぎて通用しないようだったら、もう団体をやめるか、継続するんだったら新しい理念を持ち込むか、議論しなければいけないと思います。また、子どもは「楽しい」が大事ですが、大人の場合は、楽しいことも大事だけれど、さらにそれを超えて子どもたちをどう指導していくかが必要です。さらに、なぜこの団体が存在して、地域にどう貢献していくのかを考えていくことが大切です。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の話聞いていて、提言書には10年間を見据えた社会教育の在り方みたいな意味合いも必要なのかなって思いました。この5団体が補助金をもらっているというのは、価値ある取り組みをされているからだと思うんですが、この補助金に値する価値ある取り組みって何なのかって言ったところがここには書かれていない。あるべき姿が、解決策になっているので、例えば社会に対してどんな価値があるのかといったところ、だから補助金をこの5団体がもらっているって、だから存続させたいんだっていうのが、文面からわかるようなものにされたらいいのかなっていうふうに思いました。
<p>議長（委員長）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、議事終了ということで、ご協力いただきありがとうございました。以上をもちまして、力不足ではありましたが、議長の職を解かせていただき、進行を事務局に戻させていただきます。
<p>事務局（司会）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小野委員長、円滑な議事の進行ありがとうございました。それでは事務局から、事務連絡申し上げます。次回の会議日程は予定では令和8年の3月を予定しています。そこは改めてご連絡いたします。事務連絡は以上になります。 <p style="text-align: center;">< 閉会 ></p>

議事の顛末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

令和 7年10月14日

署名者の職・氏名 委員長 小野 奈生子